

2011年(平成23年)1月21日(金曜日) (2)

黒潮発電プロ提案

建設費最大 事業の成立性確認

NPOの産学官研究会

海に関する調査研究を
展開するNPO「黒潮マ
ン21」の産学官研究会が、
黒潮を利用した発電開発
プロジェクトを提案し
た。黒潮の強い潮流エネ
ルギーと、潮の差間と深
淵の温度差を利用した発
電プロジェクトで、多く
の装置で構成されるフ
ームタイプを高知県の足
摺沖に設置した場合、
年間0.34億kWhの発電
量が期待できる。建設費
は22290億円、4090

億円と試算され、発電コ
ストと比較すると従来の
エネルギー事業としての
可能性が確認できたとい
う。

プロジェクトを提案し
たのは「海洋エネルギー
研究会」。10年5月から
二つの小委員会を設けし
て調査研究を重ねてきた
が、成果がまとまってい
ない。研究会では、

「黒潮の潮流と深淵の海水
温度差も調べた。海
洋温度差発電装置
(10万kW)、1基と潮流
発電装置(2000kW)を
20基で構成し、送電系を
共有するフームタイプ
の場合、製作費を含む建
設費は22290億円、40

90億円程度と試算され
た。建設費最大の黒潮研
究に取組んだ場合、18万
世帯に相当する年間0.3
4億kWhの発電量が期待
できるといふ。1、2、3

から19日に合同会議を
開いた。調査研究では、
▽神島西北▽トカラ列島
▽阿波▽足摺沖▽瀬戸沖

▽三宅島沖の海域を
調査して発電設備を分
析。世界最大級と認めら
れる黒潮の潮流エネルギー
を把握するとともに、6

た。建設費最大の黒潮研
究に取組んだ場合、18万
世帯に相当する年間0.3
4億kWhの発電量が期待
できるといふ。1、2、3

た。建設費最大の黒潮研
究に取組んだ場合、18万
世帯に相当する年間0.3
4億kWhの発電量が期待
できるといふ。1、2、3

た。建設費最大の黒潮研
究に取組んだ場合、18万
世帯に相当する年間0.3
4億kWhの発電量が期待
できるといふ。1、2、3

た。建設費最大の黒潮研
究に取組んだ場合、18万
世帯に相当する年間0.3
4億kWhの発電量が期待
できるといふ。1、2、3

た。建設費最大の黒潮研
究に取組んだ場合、18万
世帯に相当する年間0.3
4億kWhの発電量が期待
できるといふ。1、2、3